

2017年度ランゲージラウンジ活動報告

教養教育センター ランゲージラウンジ運営委員会

1. 総括

2008年に始まったランゲージラウンジ活動は、まず語学検定試験用の問題等をそろえて学生たちが自律的に学習できる環境をつくることから始まった。現在では、英語とスペイン語はILSSP (Independent Language Study Support Program) を開設し、学習者自らが具体的な目標を設定して、そのゴールに向かって定期的にチューターと面談しながら(英語)、あるいはオンライン学習を用いて(スペイン語)、自律学習実践ができるように支援を行っている。また、それ以外にも、言語によっては曜日・時限を決めて、ネイティブスピーカーとの会話実践の場を提供したり、日頃の学習のサポートを行ったりしている。

以上のように、現在は、各外国語がそれぞれ独自の事情を考慮して行っている。引き続き次年度についても、留学生との交流の機会を増やし、言語がコミュニケーションの道具であることを実感できるような場を増やすことを目標に、多様な外国語支援活動を行っていきたい。

2. 活動詳細

2.1 英語部門：石井友子

英語部門では、昨年度に引き続き、英語の自律学習を一学期間にわたってサポートする、Independent Language Study Support Program (ILSSP)を実施したことに加え、新たな試みとして、English Phone Video Club and Contest を実施した。

ILSSP は本学非常勤講師の山森由美子氏および坂井誠氏を担当者とし、春秋学期共に月曜日(11:00-15:30)、水曜日(11:00-12:55)、木曜日(13:00-15:30)に実施した。各学生が設定した学習目標に沿って教材や学習方法を提案し、ポートフォリオを活用して学習記録をつけることによって、自律的学習習慣を身につけることを目的とした。個別指導という性質上、参加を希望する学生全てにサポートを提供することは叶わず、調査用紙に記入された英語学習に対する熱意や目標を勘案して選抜を行なった。本年度の参加者数は以下の通りである。

表I ILSSP実績

	LE	LF	LA	EE	EB	EG	SG	SW	JU	JC	JP	KS	KC	PS	PE	計
春	3		1	2	1	1		1	3	2	3	5		2		24
秋		4	1	1	1		4	3			2	6	1	1		24

2017年度に新たな試みとして行なった English Phone Video Club and Contestでは、本学助教 Thomas Dax 氏を担当者とし、テーマ設定の仕方や撮影のコツなどについて、英語によるワークショップを春学期2回、秋学期3回の計5回実施した。また、必ずしもこれらのワークショップへの参加を前提としない形で応募者を募り、英語での短いビデオを制作し、完成作品を上映するコン

テストを企画した。各ワークショップのテーマは以下の通りである。

表2 English Phone Video Club テーマ

6月	コンテストの説明（趣旨・ルールなど）
7月	ビデオ制作に向けてブレインストーミング
10月	スマートフォンを使用した撮影のコツなど
11月	Windows Movie Maker 等、編集ソフトの使用法について
12月	作品上映会

学生が楽しみながら英語を使う機会、また自律してプロジェクトを企画・実行する場を提供することを目的としたプロジェクトであった。来年度以降、本プロジェクトの周知に力を入れ、より多くの学生に参加してもらえることを期待する。

2.2 ドイツ語部門：吉田真

2017年度ランゲージラウンジ(ドイツ語部門)は「ドイツ語 de ランチ」と題して、森本康裕氏（本学非常勤講師）が毎週金曜日の昼休み（12：30～13：20）に行なった。毎回定期的に参加する学生の人数は年間を通して8～10名であった。参加者の大半はドイツ語初級を履修している1年生の学生だったが、中級ドイツ語を履修している2年生の学生やドイツ語未修者も参加し、ドイツ語だけでなく、ドイツ語圏の文化に関するさまざまな情報を提供する場となった。

教材としてはインターネット上のウェブサイト『東京外大言語モジュール（ドイツ語版）』を利用し、ドイツ語リスニングや基礎文法項目の解説を行った。また、重要なフレーズや単語の確認、すでに授業内で学んだ文法事項の簡単なおさらい、典型的なドイツ語の言い回しなどを学習した。また、Tages SchauやSpiegel TVなど、ウェブ上で閲覧できるドイツのニュース番組を利用し、現代ドイツの時事的な問題を紹介した。

本講座では春秋両学期を通じ、授業時に学んだ基本的なドイツ語文法の復習やその応用のための機会を提供すること、参加者がドイツ語やドイツ文化に親しみをもってもらえるよう努めること、参加者のドイツ語学習へのモチベーションを高めることを目標とした。

2.3 スペイン語部門：大森洋子

スペイン語では、オンラインコースを行なうとともに、Francisco GARZÓN先生を講師に、Tertuliaと名付けて、会話実践の時間も設定した。

自律的な学習をより効果的に行えるオンラインコース、スペイン文化センターが開設しているAVE がリニューアルし、AVE globalとなり、スカイプ授業を含む自律学習コースとなり、コース最初、

および途中で2回の受講を行なうことが可能になり学生たちの学習意欲の向上がみられた。昨年度は、スペイン語での会話にとまどう学生もみられたので、コース責任者と話をし、より大学での学習内容に合致したものを工夫、さらに、後期にはどのような会話がなされるかについて事前に配布物を用意し、スムーズに学習ができるようにした。また、学習者のニーズ、進度によってコースをカスタマイズすることを提案され、そのコース学習を行なっている学生が何名かいる。結果を期待したいところである。

一方、会話スペースでは、一部の授業とコラボする形で、スペイン語圏の生活、都市について聞いてくるなどの課題を出すことによって、授業外での学習を促した。後期は、より具体的に目標を持った学生の来室があり、平均的に5、6人の参加があった。次年度は、さらに、授業との連携、スペイン語圏への興味をかき立てるような工夫を担当者と話し合い、すすめていきたい。学生たちに外国語でコミュニケーションすることの楽しさ、新しい気づきなどを提供したい。

2.4 中国語部門：洪潔清

2017年度中国語部門「中文会話倶楽部」の活動は、例年通り、中国人留学生在が担当し、毎週木曜日の昼休みに横浜校舎138教室で行なわれた。毎回2～5名の学生が参加し、参加者は全員中国語を学び始めたばかりの1年生であった。そのうち、中国語を学んでいる外国人留学生在も時々参加していた。今年度は参加者が少なかったため、参加した学生は担当の留学生在と一対一で授業内容の補習や実践的な会話の練習をすることができた。また、時には現代中国事情に関して双方が話し合ったりして、参加者が以前よりも中国文化への理解を深めることができたと思われる。

また、今年度は以下の2つの課外活動が行われた。

(1) 10月8日に神奈川県日本中国友好協会が主催した「第35回全日本中国語スピーチコンテスト 神奈川大会」に学生2名が朗読発表会に参加した。発表会の前に倶楽部活動時間内で参加者のためにリハーサルを行い、中国人留学生から発音などの指導をしてもらった。2年生の日本人参加者は朗読発表の内容を暗誦までできており、しっかりと準備しておいたものの、本場では内容を間違えてしまい、惜しくも優勝をのがしてしまった。非常に残念に思われるが、審査員に大いに評価されたことで、本人は来年度もう一回参加し、リベンジしたいと自信がついた。もう1人の参加者はベトナム人留学生であった。評価対象外（参加資格は日本国籍を有すること）と分かっていたが、練習の場として参加したいと積極的な姿勢を見せた。参加後、発表会での体験はとてもいい思い出に残り、これからも中国語を続けて勉強したいと語った。

(2) 昨年に続き、12月18日に倉田コミュニティハウスで、学生の任意団体「アジアのわ」とともに「餃子パーティー」を開催した。今年は中国人留学生と日本人学生、また非常勤講師を含む教職員、計29名が参加していた。事前にチラシを作って、授業中に配ってはいたが、日本人学生の参加者が少なかったのは残念なことであった。しかし、初めて餃子の皮作りを体験した日本人学生は、

自分で本場の水餃子を作って食べられたことは非常にいい経験になったと感想を述べた。1年生の留学生たちは、寂しい留学生活の中、こんなにも多くの中国人留学生と出会い、交流することができて、とても暖かく感じたと話していた。また、食材の買い付けから料理や片付けまで、時間と体力を費やした幹事長と料理を担当した留学生も、みんなに喜んでもらったので一生懸命準備したかいたと語っていた。

今後もこうした異文化体験の交流会を開催したいが、より多くの日本人学生に参加してもらうために、事前準備と開催方法においても工夫しなければならないと思われる。

2.5 韓国語部門：金珍娥

2017年度韓国語ランゲージラウンジは横浜校舎において以下のような日程と内容で週1回実施した。

●横浜校舎

担当講師：高槿旭（コ・グヌク）

実施期間：春学期2017年4月20日～7月12日（毎週水曜日）

秋学期2017年9月27日～2018年1月17日（毎週水曜日）

教 室：明治学院大学横浜校舎 138教室

時 間：12時30分～13時20分

人 数：春学期 4～7人 秋学期 4～7人

担当講師の高槿旭先生から以下のようなことが伝えられた：

話す能力の向上を最大の目標とした。具体的な内容と、成果は次のごとくである。

1. 学習の内容

料理、就職、趣味といった身近なテーマを中心に、韓国語で語り合う。主に、日本語圏と韓国語圏の文化の相違点について、話す練習を行った。

単語カードを用いて単語の説明をし、単語を当てるなどゲーム式の学習も行った。

2. 学生の反応と成果

中級レベルの参加者が多く、高度な会話ではないものの、テーマに関わる語彙を中心に、表現力を向上させた。学生は積極的に参加しており、学習意欲も高まったと言える。学生の意見としては、アットホームな雰囲気中で、韓国語でたくさん話せるのが嬉しい、といった意見が多かった。また、韓国語の授業を履修しなくても、ランゲージラウンジの参加によって、韓国語が話せるようになっ

で嬉しいという意見もあった。

総括して、ランゲージラウンジが参加者の話す能力の向上、学習モチベーションアップにつながったと言える。